



手外科領域の治療に関して

当院整形外科は昨年10月に一般社団法人日本手外科学会の研修施設認定を受けました(※1)。本稿では当科が得意とする領域の中でも手外科についてご説明させて頂こうと思います。



整形外科部長 戸祭 正喜

日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本手外科学会認定手外科専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本体育協会公認スポーツドクター
元ガンバ大阪チームドクター

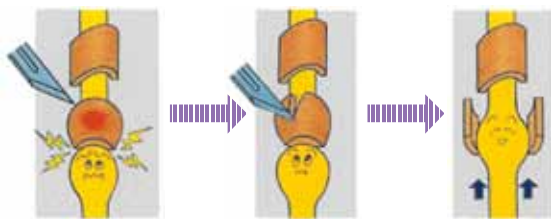
「手外科専門医」とは、整形外科専門医であり、かつ手外科専門医試験に合格した医師を指します。この「手外科専門医」試験を受けるためには学会が作成したカリキュラムに沿った研修を受け、通算5年以上手外科に関する研修期間を有し、その内、日本手外科学会認定研修施設で通算1年以上の研修期間を有すること、手外科すべての分野の病気や外傷について、学会で定められた基準を満たした診断・治療に携わり、手外科関係の学会で発表し、学術専門雑誌に論文として発表した経験のあることが条件になっています。当院では私が手外科の専門医として認定を受けております(※2)し、冒頭に述べたように当科は研修施設としての認定を受けていることもあり、手の治療は特に得意とする領域であります。以下で手外科が得意とする主な疾病についてご説明致します。



橈骨遠位端骨折の修復の一例

ばね指(腱鞘炎)の治療

腱鞘炎のひどい場合を除けば、特殊な針を使って皮膚を切開することなく靭帯性腱鞘を切離することができます。外来日帰りで処置をしますので、入院する必要はありませんし、手術室に入った必要もありません。皮膚を切開しないので、翌日より、入浴を含めて、日常生活を制限する必要は特にありません。



粉碎骨折の修復・固定

手首の骨折は上肢の単純な修復とは異なり、修復が難しく変形治癒になりやすいため、手の機能を失うことがあります。手外科専門医は手首の解剖を熟知しており、難しい骨折も元の形に修復固定し、かつ早期にリハビリテーションを行い正常な機能に戻します。

手のしびれ、痛みの治療

手のしびれや痛みは、手首(手根管症候群)、肘(肘部管症候群)、肩(胸郭出口症候群)に原因があることが多く、これらは神経の圧迫を手術的に取り除くことにより、しびれや疼痛は和らぎます。このような手術は傷つきやすい神経を扱うため専門的知識や経験が必要ですが、手外科専門医はそれらを有しているため安全、確実に手術を行うことができます。

失われた運動機能の再建

麻痺して動かなくなった指や手首は、腱や筋の移行術を行うことにより、再度動くようになります。これには局所の機能、解剖を熟知し、繊細で高度な手術技術が必要ですので手外科専門医の仕事です。

先天異常の治療

先天的な手指の異常の治療も手外科専門医の重要な仕事です。小児の手指は小さいので、手術は難しく、マイクロサージャリーの技術が必要です。

上記のように手の治療には運動器の中でも特に複雑かつ細かな知識・技術が必要です。上記のような症例がございましたら、ぜひ当科にご紹介頂きますよう、お願い申し上げます。患者さんや先生方が満足されるような治療を行って参ります。

※1 神戸市内の認定機関数：4機関

※2 神戸市内の専門医：8名

(ともに一般社団法人 日本手外科学会ホームページより)

「在宅医療支援室」開設

院長 市原 紀久雄

本年4月1日から川崎病院では「在宅医療支援室」を開設しました。この部門のミッションは入院中の患者さんが、入院前に住んでいた自宅にスムーズに退院でき、継続して療養が続けられるようにアレンジすることです。

現在、日本は世界的に見ても未曾有の超高齢社会に突入しようとしています。高齢者は有病率が高く、その病気も加齢の影響を受けた慢性疾患で、治癒の可能性は少ないといえます。高齢者はこの慢性疾患の悪化や合併症で急性期の病院に入院するわけですが、現在ではこの患者さんたちは入院中にADLが悪化し、もとの自宅の帰ることができない場合が多く、慢性期病棟や介護施設への入院・入居を余儀なくされています。この流れは、多くの患者さんが自宅での生活を望んでいることを考えると、生活の質を考慮に入れられない医療政策の犠牲になっていると言えるでしょう。一ツ橋大学の猪飼周平氏は「海図なき医療政策の終焉」(現代思想2010年3月号)で21世紀の病院は治療する場所から、地域の包括ケアの一員になると説いています。今後の医療はQOLのよい在宅で生活を推し進めて高齢者の幸福を目指さねばなりません。慢性期病院や介護施設が必要な患者さんも多く存在しますので、もちろんこれらの施設も必要ですが、治癒の見込みの少ない超高齢社会での医療は、基本的には病院での治療と在宅での慢性期のQOLを重視した療養を柱にするべきではないかと考えます。現在のように、在宅での介護ができないために急性期病院が高齢者を施設へ送るといのは反省するべきことと思います。在宅ケアは入院医療の延長であり、入院医療は在宅ケアの補完の関係になるのが理想ではないかと考えます。

急速に進歩して充実してきた最近の在宅医療へ、急性期病院はしっかりと橋渡しをする必要があります。今回、川崎病院では「在宅医療支援室」を設け、入院中からQOLの良い自宅での療養の準備をして患者さんを自宅へ返すことができるようにしたいと考えます。スタッフは患者のケアマネージャーと協力して一人ひとりの患者の自宅での良質な生活を確保するため、診療所の先生方、訪問看護ステーションの看護師さん、ヘルパーさんなどの協力関係のアレンジの役割をしていきたいと考えております。まだ、本格的な活動には入っておりませんので、成果は未知数ですが、川崎病院の新たな取り組みとしてご理解いただきご協力のほどをお願いいたします。

専門特殊外来担当医表

専門特殊外来は予約が必要です。

診療科	月	火	水	木	金	土(第2・4は休診)			
内科	午前	【糖尿病外来】 市原 紀久雄	【糖尿病外来】 大塚 章人	【脳神経外来】 篠山 隆司	【糖尿病外来】 大塚 章人	【腫瘍外来】 向原 徹	【神経内科外来】 津田 健吉	【呼吸器外来】 笠井 大介
	午後	【腎臓外来】 粕本 博臣	【呼吸器外来】 日下部 祥人	【禁煙外来】 中村(1・3・5)/久保(2・4)	【血液外来】 飯田 正人	
循環器科	午後	【ペースメーカー外来】 (第1、第3のみ)	
外科	午後	【乳腺外来】 阪尾 淳 13:30~14:30	【肛門外来】 柴北 宗顕 14:00~	【乳腺外来】 木許 健生 13:30~14:30	【ストマ外来】 14:00~	
	午前	【スポーツ外来】 戸祭 正喜	
耳鼻咽喉科	午後	【補聴器外来】 要外来受診 (第1、第3、第4、第5のみ)	
形成外科	午前	【フットケア外来】	

その他、各診療科にて力を注いでいる疾患・治療

注) 学会など諸事情により代診、休診になる場合もあります。あらかじめご了承ください。

標榜科	専門	医師名および診療曜日	標榜科	専門	医師名および診療曜日		
内科	糖尿病	市原 紀久雄 (金曜 午前) 大塚 章人 (月曜 午前)	消化器科	悪性疾患(肺癌、胆管癌等)により 黄疸が出た時のステント減黄術 消化器癌の早期発見と内視鏡治療	全医師が対応致します		
	消化器一般	多田 秀敏 (火曜 午前/金曜 午前)					
	肥満、高脂血症、内分泌	中村 正 (月曜 午前/水曜 午前)	循環器科	閉塞性動脈硬化症 狭心症	全医師が対応致します		
	血液	飯田 正人 (月曜 午前/水曜 午前/木曜 午前)					
耳鼻咽喉科	腎臓	粕本 博臣 (水曜 午前) 成山 真一 (月曜 午前)	整形外科	小児全般 手全般 スポーツ障害全般	戸祭 正喜 (月曜 午前/金曜 午前)		
	睡眠時無呼吸症候群	下屋 聡子 (月、水、木、金、土 午前) 土曜日は第3・5のみ		形成外科		顔面外傷・顔面骨折 四肢外傷	岩谷 博篤 (月・火・木・金・土 午前/水曜 午後) 土曜日は第3・5のみ
	中耳炎					歯科 口腔外科	
	アレルギー性鼻炎		インプラントおよび インプラントのための骨再生	全医師が対応致します			
	副鼻腔炎						
	扁桃炎						
	声帯ポリープ		松場 眞弓 (火・水・金 午前)	眼科	涙道手術		
突発性難聴							
顔面神経麻痺					

ご予約は地域医療連携室まで電話またはFAXにてお申し込み下さい。 電話 078-511-3133 / FAX 078-511-3297